

第一回 齋藤茂吉短歌文学賞

〔選考委員〕

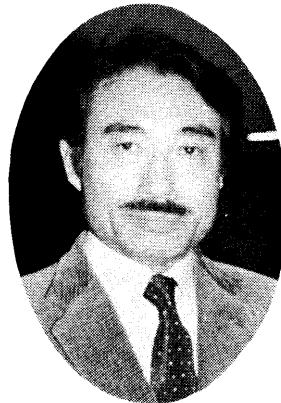
岡井 隆 「親和力」 砂子屋書房

委員長 近藤 芳美

委員 扇畠 忠雄 大岡 信

塚本 邦雄 馬場 あき子
(五十音順)

正賞・茂吉自筆の短歌織画／副賞・賞金百万円



齋藤茂吉短歌文学賞受賞者略歴

岡井 隆(おかいたかし)
昭和3年(1928)名古屋市生まれ 62歳
慶應大学医学部卒業 医師 大学教授
昭和21年アララギに入会。昭和26年「未来」
の創刊に参加。現在「未来」の編集責任者。昭
和30年(1955)頃から塚本邦雄、寺山修司らと
いわゆる前衛短歌運動を起こす。

著作に歌集「齊唱」(昭和31年)、「土地よ、痛
みを負え」(昭和36年)、「朝狩」(昭和39年)、「α
(アルファ)の星」(昭和60年)評論に「茂吉の
歌一私記」、「人麿」からの手紙—茂吉の読み
方」など多数。

なお、昭和58年歌集「禁忌と好色」で第17回
追空賞を受賞している。

齋藤茂吉短歌文学賞運営委員会

事務局

〒990 山形市松波二丁目八一一 山形県生活福祉部生活文化課

☎〇二三六(三〇)二一五八

齋藤茂吉短歌文学賞受賞作

岡井 隆 「親和力」 より

受賞のことば

岡井 隆

あさよひの交易摩擦あしひきの山川の瀬のなりひびくまで

コンテナ車かぞふる子らの声のなかさびし當利のはたてなる死は

友達のやうに手を振る妻子居て妻子居てさへさびしきものを

酒が来て肴が来ぬ間言ふべきか迷ひたれども一語言はずき

さいはひの浅瀬をわたる一家族提げたる靴を水に映して

世界まだ昏れゆかぬころ膝の上にのせたる顎を涙走りき

存在のはじめよりして呪はれし和歌のごとくに生き残りたり

あかあかとまなこをあけて昇り行く特殊潜航艇「月読」は

ワイマールのちナチズムの興りしを読みつつ長く後架に坐る

額田郡にんじん村はほそき雨逢ひたくて来て逢はず帰りぬ